

三水会会報

北里大学海洋生命科学部
同窓会会報 第 61 号

平成23年2月発行

編集者 内藤 文隆

発行 三水会(北里大学
海洋生命科学部同窓会)

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

目次	P.1	海洋生命科学部教員紹介	P.5
三水会創設30周年を迎えて	P.2	就職ガイダンスに参加して	P.6
祝—三水会30周年	P.3	第38回漁火祭・魚類図鑑	P.7
海洋生命科学部教員紹介	P.4	平成23年度三水会定期総会	P.8

三水会創設30周年記念号



三水会からの北里大学同窓会役員と同会長・副会長

左から 内藤監事(三水会)、鈴木副会長(医療衛生学部同窓会)、長屋副会長(三水会)、
島田会長(医学部同窓会)、小山田副会長(紅緑会)、高橋理事(三水会)、長谷川理事(三水会)、
田中常任理事(三水会)、柳澤理事(三水会)

三水会創設30周年を 迎えて

三水会会長 五期生 高橋明義

1. はじめに

三水会が発足したのは昭和55年(1980年)であり、今年平成22年(2010年)は創設30周年となります。本会の発足とこれまでの活動にご尽力を賜りました諸先輩を初めといたしまして、同窓生ならびに水産学部(現海洋生命科学部)の教職員、さらに三陸大船渡を中心とする地域の皆様に、厚くお礼を申し上げます。

2. 発足の頃

北里大学に水産学部が設けられ、一期生が入学して相模原の教養部で学び始めたのが昭和47年春。三陸の地に初めて学生が足を踏み入れたのは48年の春になります。当初、国道45号線は昭和45年の岩手国体を期に整備されていたものの、浦浜から崎浜・大学までの道路は、舗装はおろか、まるで秘境へ通じるような草深い道であったと聞き及んでおります。

水産学部から最初の卒業生が巣立ったのは昭和51年春。卒業式の模様は夕方からのNHKニュースで放送されておりました。当時高校3年生だった私は水産学部への進学が決まっております。帰宅時釜石線から山田線への乗り換えの釜石駅待合室でそれを見つめて夢を膨らませていたことを鮮明に記憶

しております。三水会の発足はそれから4年後、長屋信博初代会長らのご尽力に負うところでありました。

3. 卒業生の心の象徴

20世紀の水産学部は漁火祭の「大漁踊り」に象徴されるでありましょう。バスで釜石・大船渡・盛・綾里・浦浜・崎浜に押しかけて、赤フン姿でのドンパン節と水産放浪歌。バスの中には「酔仙」がありました。最初は釜石警察署と釜石消防署に面した路上。2年生の中には未成年者も半分以上含まれていたはずですから、現在の社会規範に照らすと信じ難く、大らかでありました。現在では全く御法度な振る舞いであり、学生指導委員長(現在の私の担当)の首はいくつあつても足りないことになります。隔世の感を禁じ得ません。

21世紀を迎えるにあたり、学生有志の決断により「大漁踊り」は水産学部の歴史のなかで語り継がれるものとなりました。これを告げられた釜石のある篤志家は落涙し「廃止」を惜しんだと仄聞いたしております。

しかし漁火祭そのものは、学生諸君のアイデアと行動により益々活況を呈しております。マグロの解体ショー、よさこいソーラン、課外活動披露、チャリティーバザーなど、実行委員数十名が主体となり、研究室も模擬店を出すなどして盛り上がりを見せております。今年度は、史上初めて、前夜祭で花火を打ち上げました。秋の夜長の10

分間、素朴な打ち上げに風情を感じつつ、学生の心意気に打たれました。

平成4年に旧屋内水槽を解体してF4号館(通称マリンホール)が完成し、それに伴いF2、3、4号館に挟まれる屋外水槽も図書館下に移りました。通常は駐車場となっている屋外水槽跡は、仮設ステージが設置される漁火祭の主会場であります。ここを中心とする、祭り場として一体化した空間が出来上がっていることが、近年の漁火祭の特徴といえましょう。その様子は先年設置されたライブカメラでご覧頂いているところでもあります。21世紀の本学部卒業生には新たな思い出が刻まれているはずですよ。

4. ふるさと三陸

少子化時代のいま、大学の「身売り」や「倒産」が始まっています。わが学部の如く、地方に存在する小さな学部が定員割れをすることなく40年にも亘って存続し続けていることは、大業を取り巻く現代日本社会の奇跡とさえみなすことができます。

三水会会員の皆様には三陸での生活を、折に触れ思い出されていることと思います。同輩、部下、後輩への訓示には三陸生活が基礎になっていることが多いのではないのでしょうか。そのような気概を持つ卒業生を排出し続けるのが三陸の役目であり、受入れ続けるのが先輩・既卒者の役割と、理解することができそうです。

高校生が受験大学を選択する基準

として、教育・研究内容に加えて、今は就職状況も重視されているとのことです。教育・研究については三陸教員の切磋琢磨に掛かっております。その一方で、在学生の進路については、いよいよ三水会の皆様のご支援を頂く時が到来したことを実感いたしております。

5. 在学生支援に向けて

文部科学省と厚生労働省の共同調査によれば、平成22年3月大学卒業生の4月1日時点での就職率は91.8%(昨年同期比3.9ポイント減)でありました。同93.4%の本学部は平均よりは上回っておりますが、昨年は100%であったことを考えると、就職委員長(現在の私のもう一つの担当)としては単純に喜ぶわけに参りません。

本学部の卒業生数は平成22年3月で5,940名となっております。これほど多くの三陸同窓生の方々が社会の第一線で活躍しています。そして各方面で重責を担っていることでしょう。これから世の中に羽ばたく後輩諸君に、これまで以上に活躍の場を与えてくださいますよう、求人活動などを通じてのご協力をお願いする次第であります。

末筆ながら三水会諸氏のご多幸をお祈りしつつ、三水会と海洋生命科学部への一層のご支援をお願い致します。て、挨拶とさせていただきます。

祝—三水会30周年

海洋生命科学部（水産学部）学部長

緒方武比古



三水会創設30周年、心よりお慶び申し上げます。この稿では学部のこれまでを雑感しながら、皆様にエールを送りできればと思います。

学部における最近の大きな出来事は2008年の名称変更でしょう。水産学部卒業生にとっては複雑な思いでしょうが、名称変更は生命科学のフロントティアたろうとする北里にあつて学部の位置づけを明確にすること、教育研究の特色をより明確にアピールすることを目的としました。もちろん、これが入学者確保につながればという期待もありました。2003年度以降、大幅な減少が続いていた志願者数が変更後、微増傾向に入ったことから、こ

の点については少しほっとしています。なお過去のデータを見ると、志願者数は10回生入学の頃より約10年間で約7倍に急増しています。これは初期の卒業生が社会で活躍され始めた時期に重なり、卒業生諸君によって学部が広く周知されたことに起因すると認識しています。卒業生は偉大です。

私が、学部に着を得た1977年、2回生が4年次生の頃に比べれば、キャンパス内外も変わりました。20回生入学時のマリンホール（講義室、学生ホール、食堂、屋内水槽）建設により、旧F4号棟（屋内水槽と動物飼育施設）がなくなり、F2、F3号館の間にあつた屋外水槽域は駐車場になりました。最近ではMB5棟（学生実験棟）が図書館前に建設され、海岸への遊歩道も設置されました。もつとも、F1-3号館、体育館、図書館は未だ健在？で、その建て替えは学部の課題となっています。

学生の生活環境についてもいくつか挙げてみます。大平林道舗装はだいぶ前ですが、最近では崎浜—大学道路も拡幅、歩道も整備されました。また、三陸縦貫道の一部開通により大学から大船渡市内までがだいぶ短縮されました。私が勤め始めたころは、公衆電話に頼る日々で、しかも停電時には使えないという不思議な現象に往生したのですが、現在は携帯電話OK、崎浜地区のネット環境も近々光になります。新幹線の威力は大きく、水沢江刺に車を止めれば大学—東京駅間4時間半程度です。東京午後の会議であれば日帰りするこの頃、昔の夜行列車が懐かしく思われます。かくのごとく、ずいぶん便利になりました。特に、インターネットにより都会の民と瞬時に情報を共有できる環境は学生生活にも大きな変化をもたらしているように感じます。そして、昔に比べれば教職員、学生ともどもずいぶん忙しくなった気がします。

大自然の活動と直接向き合う三陸にあつては当然ですが、風、雨、雪、地震など全て大のつくものを経験しました。大風では下宿の屋根消失、学生実験室の窓ガラス全壊、守衛さん鯉のぼり事件（松の木に捕まった状態で足が浮いたとのこと）などが思い出されます。校舎のあちこちに見られるひび割れは宮城県沖、三陸はるか沖地震などの名残です。地震といえば、揺れがおさまった時に男子学生同士が手をつないで震えていたというエピソードも思

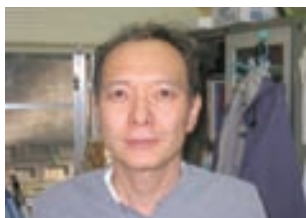
い出します。大雨被害も甚大でした。袖の沢上部道路、浪板付近道路の崩落は長期通行障害を引き起こし、F1東側駐車場の崩落は大規模改修を余儀なくさせました。私が学部長を仰せつかったからは不思議と災害が影をひそめ、これが私の唯一の貢献と自負していましたが、本年度F1西側駐車場脇が崩れ、この自信もあえなく崩落しました。人的な事件も数多くありました。交通事故、地域や学生同士の衝突などなど、単位取得障害まで加えればたいいの方が何らかのトラブルを経験されたのではないのでしょうか。思えばいろいろなことがありました。

ここまで書いて強く感じるのは、三陸の地に起こる様々なことを乗り越え、これらを糧とされた卒業生諸君のたくましさです。大事なのは三陸の地そのものよりもこの地での経験を共有していることかもしれません。三陸も変わったと前述しましたが、シカとの遭遇頻度を始め自然環境、風土はほとんど昔のままです。そして、現在の学生諸君もこの地で起こる様々な出来事と向き合いながら必死に勉強、生活を営み、先輩諸君に続こうとしています。卒業生諸氏におかれましては、現役学生諸君にも引き続き温かい応援を賜れば有り難く、今後ともよろしくお願い致します。

この稿を閉じるにあたり、重ねて皆様のご健勝、ご活躍ならびに三水会の益々のご発展を祈念いたします。三水会30周年、おめでとうございます。

増殖生物学 講座

水族増殖学 千葉洋明准教授



三陸での教員生活もいつの間にか18年、卒業生の皆さんとの熱い日々を思い出に、学生から新たなパワーをもらって元気しております。

水族増殖学 吉永龍起講師



赴任して6年目となりました。Stay hungry, stay foolishにファンキなおっさんを目指してます。

海洋分子生物学 高橋明義教授



今年も漁火祭で多くの卒業生に会うことができました。機会を作ってどんどん三陸へ遊びに来て下さい。

海洋分子生物学 水澤寛太講師



研究室の学生たちは就職活動に耐えながらよく学びよく遊んでいます。各人独立1テーマの伝統は健在です。

魚類生理学 天野勝文教授



魚類生理学研究室は、今年度から新しい体制になりました。教育・研究に心機一転がんばろうと思います。

魚類生理学 阿見彌典子講師



今年度から講師として母校に戻る事ができました。今でも夢のようです。今後とも宜しくお願い致します。

水族病理学 中村修准教授



20年後に「グラン・トリノ」のウォルトみたいな爺さんになれてたらいいですね。

水族病理学 筒井繁行講師



三陸に来てはや6年。相変わらずいろいろなお魚の粘液相手に闘っております。これからもお魚のヌルヌルのように、粘り強く研究を進めていきます。

水族機能生物学 森山俊介教授



三陸キャンパスは、ここで学ぶ学生の教育と研究を充実させるために、日々、進化しています。これからも卒業生の皆様が築き上げてきたものを土台として、皆様とともに歩んでいきたいと思っております。

水族機能生物学 天野春菜講師



平成22年4月に着任いたしました。新米教員で至らないところも多いと思いますが、よろしく願いたします。

水族育種生物学 奥村誠一准教授



皆様お元気ですか。22年度から「水族育種生物学研究室」という研究室が立ち上がり、心機一転頑張っています。

環境生物学 講座

環境微生物学 緒方武比古教授



卒業生諸君は学部の大きな財産です。益々のご活躍を！私も卒業まであと4年半、もうひと踏ん張りです。

環境微生物学 小檜山篤志准教授



渦鞭毛藻と細菌を対象に研究しております。これら生き物の謎の解明に向けて、一歩ずつ前進中です。

環境微生物学 山田雄一郎講師



こちらに着任して丸三年経ちました。シカヤクマや元気な学生達と三陸生活を楽しんでおります。

水圏生態学 朝日田卓准教授



三陸では、皆様の過ごした時分と少しも変わらず季節がめぐってきます。サケやマス、マグロやブリ、マンボウなどがやってくるたび季節を感じる事が出来ます。退職された井田先生も毎月のように回遊してきます(笑)。皆さんも是非三陸に来てください。なつかしの井田先生とバッテリーなんて幸運があるかもしれません。

水圏生態学 林崎健一准教授



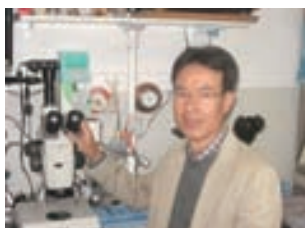
安定同位体の分析装置が導入され、新しい手法で研究に取り組んでいます。サケから熱帯の海藻まで手広く解析しています。

水圏生態学 三宅裕志講師



研究室では水族館にまけないほどクラゲ類や深海生物を飼育して研究しています。

水圏生物学 加戸隆介教授



卒業生の皆さん、「買ってでも多くの経験をして下さい」。それが、人生の目標に近づくのを助けます。ご活躍を祈っています。

水圏生物学 難波信由准教授



「君たちは世界で6番目に広い海を持つ国で海を学んでいる。これは君たちの将来にとって正しい選択だ。」とよく学生に伝えています。社会の第一線で働いている卒業生の近況を聞く度に、このことが再確認でき嬉しく思っています。皆さんこれからも頑張ってください。

応用生物化学講座

食品化学 菅野信弘教授



私が三陸に赴任したのが1984年。以来、大平林道が舗装され、種山の道路が整備され、三陸道が開通しと、遅々と変化し続けておりますが、三陸は相変わらずです。そのような中で、一番大きく変化してきたのは三陸キャンパスではないかとつくづく思う今日この頃です。

食品化学 横山雄彦講師



本学部に赴任してはや10年以上が経ちました。都会のネオンが恋しい今日この頃です。研究室の近況ですが、現在ホモラボです(全員♂)。

食品化学 池田大介講師



三陸キャンパスも3年目になりました。三陸に順応しつつあると思っております。が、道路に飛び出してくる鹿だけはどうしても慣れません。あと、雨後のカエルと、カメムシ...。当地に来る際はお気をつけください。

生物化学 佐藤繁准教授



MB1(旧F1)からMB3の最上階に移転しました。新しい名称は生物化学研究室です。MB1の事務室まで往復すると、途中の坂道を含めビルの1階から6階まで徒歩で上り下りするのと一緒です。良い運動になります。

資源化学 大島泰克教授



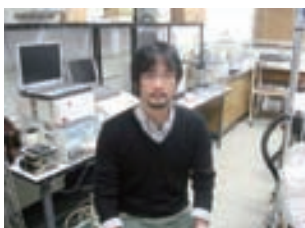
この3月、退職します。短い期間でしたが、個性的な学生さんと接することができ、楽しかったです。皆様のご活躍をお祈りします。

資源化学 神保充准教授



4年前から研究室の教員が入れ替わり、研究室名も資源化学研究室となりました。変わらないのは私だけです。

資源化学 安元剛講師



平成22年4月に着任しました安元と申します。はじめは自然の雄大さに驚きの連続でしたが、すでに三陸ファンです。

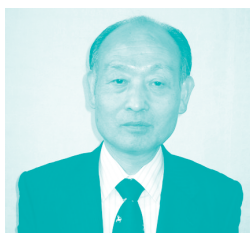
生体物質機能学 小瀧裕一准教授



○卒業生に対して一言：合言葉は三陸!! なつかしくも新しい三陸を全国版に!!
○近況報告：相変わらず記憶喪失性貝毒の研究と単身赴任を楽しんでいます。年々もの探しの時間が長くなってきましたが、こちらは加齢のせい。
○座右の銘：日々の幸福を見出すものは幸いなり。

教職課程

坂本元五郎教授



「縁尋機妙（えんじんきみょう）」という言葉がありますが、縁ほど不思議なものはありません。北里とのご縁を大切にしてお過ごしください。

高橋満教授



岩手の「湘南」、気仙の地で培われた北里の心が、広く、深く、そして遍く行き渡りますように。

就職ガイダンスに参加して

水産増殖学科23期生 北吉 直子

関西からは予想外に近い？三陸（飛行機を利用すると…）、久しぶりなので懐かしい気持ちでいっぱいになるかなと思っていましたが、しかし、生活していたころの感覚が一気によみがえり、3日間、普通に「生活」してしまいました。当日、早めに到着した私は散策し、あまり変わっていない校内の

様子に内心ホットしました。加戸先生が紅茶をごちそうして下さいました。ふと、学生時代にも同じようにお茶をごちそうになり、フジツボを見せて頂いた事が思い起こされ、とてもあたたかい気持ちになりました。この感覚は三陸キャンパスでしか得ることの

できない生涯の宝物だと感じるとともに、多感な学生時代を三陸で過ごす事の重要性を強く感じました。

今回は、職業訓練を行っている専門学校の講師という立場から、自己PRのポイントや、求められる技術について話をしました。今ある求人ニーズに対して答える事のできる人材になれば必ず就職できます。

有効求人倍率が低いといわれている昨今ですが、実は、理科系の人材は不足しています。質の高い理系技術者を企業は確保したいと考えています。しかし、上手く採用できないのが現状です。若者に不足しているため、目指す職業を絞ることができない。その結果何十社と受験し、あげくに分野違いに就職してしまうことになるのです。こういった世間の現状をふまえて、今回の就職ガイダンスに参加し、今こそ我が母校を守るためにも卒業生が在校生の就職に手を差し伸べる必要があると強く感じました。卒業生に対する講話だけでなく、企業に向けて働きかけるべきだと思いました。

最後に、後輩達が上手く就職できることを願っています。

第38回漁火祭

実行委員長 林 忠徳(MB3)

この度、平成22年10月16日(土)・17日(日)に北里大学海洋生命科学学部において第38回漁火祭を開催いたしました。

今年のテーマは「漁火祭へドンコ(どんと) 来い」と掲げ、平成22年6月より86名で日々奮闘してまいりました。今年は前夜祭で花火を打ち上げ、盛り上がる気持ち



を残したまま漁火祭当日を迎えることが出来ました。当日は晴天の下で、伝統になりつつある「マグロの解体ショー」をメイン企画とし、地域の方との交流といったチャリティイベントなど大変多くのお客様にご来場いただき、大いに盛り上がりました。

私は去年漁火祭を支える委員ではなく漁火祭を見る側の人間でした。前委員長さんからご指名を受けましたはどうなることだろうと思いましたが、幹部の皆が私に快く

ついてきてくれたこと、周りの手助けよって漁火祭が成功したこと、それは私自身にとつて友達という存在、仲間という存在がいかに大事であるかを認識することができ、良い思い出になりました。

盛り上げてくれた学生の皆、ご来場いただいた全ての方に感謝いたします。今後も漁火祭の伝統は次の世代に受け継がれます。

三水会の皆様には、漁火祭の更なる躍進のために一層のご高配をお願い申し上げます。

小さな魚類図鑑ができました！

9期生・朝日田 卓

2010年6月に小学館から「NEOポケット魚」が出版されました。大人気の図鑑「NEO魚」のポケット版ですが、ほとんどのコラムを新たに書き下ろすなど内容一新で、全ての年代の人に楽しんでもらえるように作りました。また、生物学的な内容だけではなく、食文化や魚介類の輸入、環境保全の問題まで幅広く取り上げています。川や潮だまりで魚を観察する方法、水族館の楽し

み方などポケット版ならではの特集や、スーパードライでおいしい魚を見分けるコツなどお役立ち情報も満載。魚の皮を使った工作や蒲鉾作り、ちりめんじゃこ(しらすぼし)の中に入っている稚魚の調べ方など、お子さんの夏休みや冬休みの自由研究に役立つ内容もしっかり入っています。撮影やイラスト等には三水会会員の宇井晋介氏、坂上治郎氏、藤本泰文氏、高久宏祐氏、井上祐太郎氏も参加。これで998円と値段も良心的。井田先生と私が吟味に吟味を重ねて選んだ750種の魚の世界をどうぞお楽しみ下さい。

小学館の図鑑 NEO POCKET 魚 さかな

図鑑といっしょに遊びに行こう!
淡水魚・海水魚が約750種も!!

定価 998円 本体 950円

【小学館の図鑑NEOポケット魚】
【監修・執筆】井田 卓 【指導・執筆】朝日田 卓 【執筆】松浦啓一・藍澤正宏・若見哲夫・近江 卓・萩原清司・成澤哲夫

■ 三水会創設30周年記念『講演会および懇親会』のご案内

三水会は北里大学水産学部（当時）の同窓会として1980年に発足し、2010年に30周年を迎えました。この度、三水会創設30周年記念事業として、研究室の系譜を作成するとともに、下記の通り記念行事（講演会および懇親会）を開催することとなりましたので、ご家族奮ってご参加ください。

記

三水会創設30周年記念行事『講演会および懇親会』

開催日 平成23年3月12日（土）
開催場所 ホテルシーサイド江戸川「はまかぜ」（2階）
〒134-0086 東京都江戸川区臨海町6-2-2
TEL 03-3804-1180
JR京葉線「葛西臨海公園」駅下車、徒歩3分
東京メトロ東西線「葛西」「西葛西」駅より
バス「葛西臨海公園駅」下車、徒歩3分



1. 講演会

受付 13時より随時

開催時間 14時～16時

講演者 ①北里大学名誉教授 井田 齊 氏
『いける化石…ムカシウナギ…』

②葛西臨海水族園 田辺 信吾 氏
『世界の海から魚を集める』

参加費 無 料

2. 懇親会

開催時間 17時～19時

参加費 大人1人3,000円、夫婦5,000円（高校生以下は無料）

※参加申込 三水会のホームページ (<http://kitasato-sansuikai.jp/>) から、もしくは葉書（ファクシミリ可）にて、申し込み下さい。葉書（あるいはファクシミリ）で申込み際は、「三水会記念行事参加申込み」と記載のうえ、次の①～④の事項を必ずご記載下さい。

①代表者氏名（ふりがな） ②連絡先（住所、電話、卒業年度、出身研究室）

③参加者数（大人 名、高校生 名、中学生 名、小学生以下 名、計 名）

④参加イベント（「講演会と懇親会」「講演会のみ」「懇親会のみ」の一つを記載すること）

なお、当日、葛西臨海水族園を見学された会員およびご家族の方は入場券の半券を講演会受付にお持ちください。入場料を三水会で全額補助いたします。この機会にぜひ水族園もお楽しみください。ただし、都内在住・在学の中学生（生徒手帳を持参してください）および小学生以下は入場無料です。

葉書送付先：〒246-0031 神奈川県横浜市瀬谷5-22-1 三水会事務局

ファクシミリ番号：0120-873-135

※締切 平成23年3月5日（土）

おおよその参加人数を把握したいので左記の通り締切日をもうけますが、当日参加も可能です。

※問い合わせ 三水会事務局宛にファクシミリ（0120-873-135）にてお願いいたします。

■ 平成23年度三水会定期総会のご案内

下記により平成23年度三水会定期総会を開催します。理事、代議員はもとより一般会員も傍聴できますのでご参加ください。

開催日時 平成23年5月21日（土）午後6時～（受付5時30分）

開催場所 北里大学白金キャンパス 薬学部1号館5階1507教室（事務局 TEL 0120-873-135）

注：大学の都合により開催場所が変更される場合がありますのでご参加の方は事務局までご確認ください。

議 事 1, 平成22年度事業報告及び収支決算報告 2, 平成23年度事業計画及び収支予算 3, その他

編集後記

21世紀に入って早10年。日本の誇る小惑星探査機「はやぶさ」が無事地球に帰還したり、ヒ素を体の構成成分とする新しい生命体が発見されたりと、科学の進歩発展は続いているようです。また、東北にも新幹線が青森まで延長し、地元は期待を膨らませているようです。時代とともに世の中は変わっていくものです。三水会も30年の年月を通して変わりつつあります？（少なくとも会員の平均年齢は…）。3月12日(土)には三水会発足30周年パーティーが予定されています。どれほどかわったか？または新しく会員になった若い力を誇示しに、ぜひお集まりください。もちろん「わたしはかわっていない」と主張することはご自由です。